

## 正直さや誠実さについて考えよう

9月12日（火）に5年松組で、道徳の授業を行いました。5年生の児童は、自己の良心に従って、うそや偽りがなく、明るく真面目な態度でありたいと考えている児童が多くいます。しかし、実際の間では自分の利害や損得を考えたり、相手によって言動を変えてしまったりすることも少なくありません。そこで今回の授業では『祭りの日の拾い物』という教材を通して、正直さや誠実さについて考えました。

主人公のけんじは、祭りの日に拾ったサービス券の処理について友達と話し合います。届けた方がよいという意見も出ましたが、結局は拾ったサービス券を使ってたこ焼きを買ってしまいます。そこで、今回は、「自分がけんじさんたちといたら、『サービス券を使ってしまおう』と誘われたとき、どうするか」をみんなで考えました。「自分も友達の考えに流されてしまうかもしれない」という考えや、「もう一度話し合って近くのお店に届けるように説得する」という考えが発表されました。

意見交流の後、「祭りが終わるころ、サービス券を落として泣いている妹を、必死にだめている姉の姿を見て、3人はその場で顔を見合わせ立ちすくんでしまった」というお話の後半部分を聞きました。「自分勝手な行動をしてしまった。その姉妹にきちんとあやまりたい」という考えが発表されると、大きくうなづく児童も見られました。また、友達の「きちんと交番に届ける」という意見を聞いて、誠実に生活することの大切さに気付いたと発表する児童も見られました。不正な行為をすることは、自分自身の心に対する後ろめたい気持ちが生まれることに気付くことができました。

### みんなの意見

- ★ 人の物を使ってしまったり、とったりしてもいいことはない。相手の気持ちを考えてあげることが大切だと思った。
- ★ 自分がいいと思うことの中には他人から見ればいけないこともあるかもしれない。よく考えてから行動しなければならない。
- ★ 悪いことをすると、誰かが傷つく。いいことをした方が笑顔がふえて、自分の心もすっきりすると思う。



【自己を見つめる】



【一人一人の考えを大切に】